

湖西市市民協働指針

市民協働で創る「市民が誇れる湖西市」

湖西市は、平成 22 年度、将来にわたって自立し、魅力あふれる活力ある新しい湖西市を実現するため「新・湖西市総合計画」を策定しました。この計画では、『市民協働で創る「市民が誇れる湖西市」』を平成 32 年度までの湖西市の将来像に掲げ、みんなで一体となり、まちの魅力を創造・発展させ、より良い湖西市にすることを目指しています。

平成25年3月

静岡県湖西市

湖西市市民協働指針について

この指針は、「市民協働のあり方」について、市民のみなさんと市との共通認識となる基本的な考え方を、市民協働の疑問に答えるQ & A形式で整理し、みんなで市民協働を進めるための「道しるべ」としてまとめたものです。

市民協働指針にある言葉の定義

まちづくり	住み良いまち、豊かな地域社会をつくるための取り組み
市民	市内に住所を有している個人、市内へ通勤又は通学する個人
事業者	事業を行う個人または法人
自治会等	地域を中心に活動している地区自治会連合や自治会、町内会。地域の各種団体も含む
市民活動団体	特定の目的のための活動団体、NPO（民間非営利団体、法人を含む）またはボランティア団体など

湖西市市民協働指針の目次

Q1. 「市民協働ってなに？」	1
Q2. 「なぜ市民協働が必要なのか？」	2
Q3. 「市民は協働を必要としているのか？」	3
Q4. 「市民協働を進めるにはどうすればいいの？」	4
Q5. 「市民協働を進めていくうえでのルールは？」	5
Q6. 「湖西市の市民協働のイメージは？」	6

Q1.「市民協働ってなに？」

A

みんなで一緒に住み良いまちをつくることです。

湖西市では、これまでも「自分たちのまちは、自分たちでつくる」という意識のもと、様々な活動が自治会を中心に取組まれてきました。今後も、このような歴史の積み重ねの中から、お互いに良いところを持ち寄って「みんなで一緒に住み良いまちをつくっていこう」という「市民協働」を育てていきます。

市は、これまで自治会等を中心にまちづくりを進めてきました。

今後は、さらに、より多くの市民や事業者、市民活動団体も協力した支え合うまちづくりを目指します。

協働事例① 安心・安全な住み良いまちを目指して（表鷲津地区）



平成 23 年に発足した「表鷲津地区安心・安全まちづくり協議会」は、地区内の安心・安全を共通の目的にあいさつ運動を推進し、地区内の各種団体が責任と役割を分担して活動しています。

定例的な活動として、毎月 2 回、青色パトロールを市や湖西警察署、湖西市防犯協会とも連携して一緒に安心安全のまちづくりを進めています。

Q2. 「なぜ市民協働が必要なの？」

A

①「市民主体のまちづくり」が進められるからです。

市民・事業者・自治会等・市民活動団体・行政（国、県、市等）が、さらに多くの市民協働の実践を積み重ねていくことで、地域における住民自治の実現につながります。

②市民ニーズに沿ったサービスが効果的に行えるからです。

湖西市では、これまでの画一的な方法では解決できない、多様な市民ニーズや地域課題が多く、地域ごとの対応を求められています。

だからこそ、市民ニーズを効果的に反映できる市民協働によるまちづくりを進めます。

③社会的な背景からも市民協働が必要とされているからです。

今後、湖西市では、人口減少・少子高齢化社会の到来や景気の低迷などにより、税収減と社会保障費の負担増が予測されます。より良いまちにするには、これまでの仕組みを見直し、自ら考え目標をもって行動するため、市民協働によるまちづくりを進めることが必要な時代になりました。

協働事例② 命守る避難路の整備（新居北地区）



平成 24 年、新居北地区連合自治会では、湖西市新居にある新居小学校北側の源太山を地震時の津波の避難場所として活用できるよう避難路の整備を行いました。整備には、6 自治会（15 町内会）や自主防災会など 90 名が参加しました。その後も、避難路は、新居小学校 PTA の奉仕活動が実施されるなど、さらに活動は広がり、市民主体のまちづくりが進んでいます。

この他に、新居地区の町内会や白須賀地区内でも同様な取り組み事例があります。

Q3. 「市民は協働を必要としているの？」

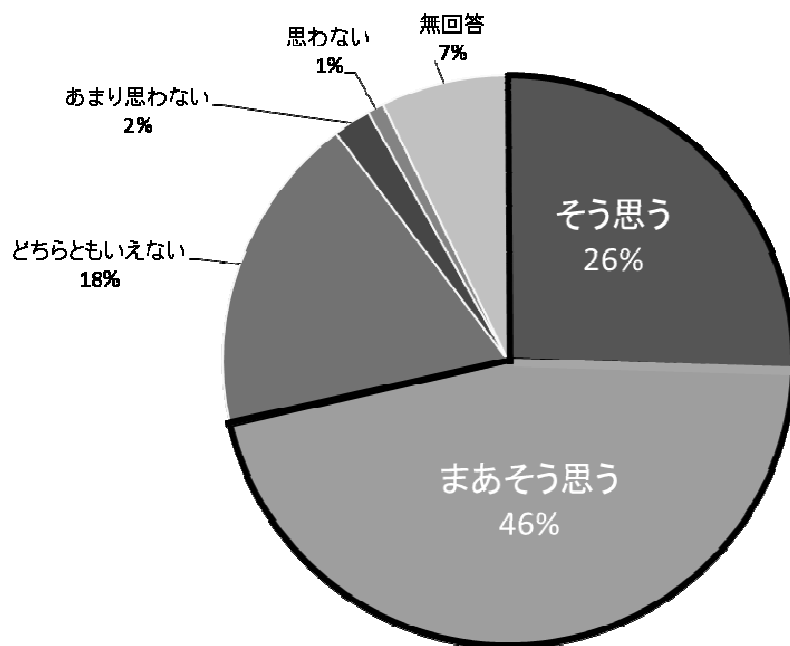
A

市民の7割が「協働が必要」と考えています。

湖西市は、平成 21 年に市民まちづくりアンケートを実施し、「住民参画・協働についての基本的な考え方」について調査しました。

その結果、「これからのまちづくりには、住民の参画や協働が必要だと思いますか」という質問に対し、「そう思う」「まあそう思う」と回答した割合が72%ありました。

これからのまちづくりには市民協働が必要である



平成21年度 市民まちづくりアンケート 湖西市

◆調査対象	湖西市・新居町在住の16歳以上の住民から無作為に抽出した各4,500人
◆調査方法	郵送による配布・回収
◆調査期間	平成21年11月6日に配布し、11月27日を回答期限として回収
◆回収状況	・ 配布数 4,500票
	・ 有効回収数 2,326票
	・ 有効回収率 51.7%

このことから、「まちづくりには住民の参画や協働が必要である」という市民の思いが読み取れます。

Q4.「市民協働を進めるにはどうすればいいの？」

A

市民協働は、『「協働の意識」を持ち、話し合い、やってみよう』という3つの流れで進めていきます。

① 意識を持とう！

それぞれの立場での「市民協働の意識」を整理しました。

立 場	市民協働の意識
市 民	「自分たちでできることは、自分たちで行う」というまちづくりの主役としての意識を持ち、自治会などの地域活動や市民活動への参加
事業者	積極的な地域社会への貢献
自治会等	地域の課題を市民同士が助け合い解決していくなど、住民自治の要としての役割
市民活動団体	多様化した住民ニーズに迅速かつ柔軟に対応することで、市民協働の推進に貢献
湖西市	市民協働の推進役としての自覚と実践 市民・事業者・自治会等・市民活動団体の意識を高揚させるための積極的な情報提供

② 話し合おう！

共通の目標を持つ者同士が、みんなで話し合います。

③ やってみよう！

市民協働による活動をひとつずつ増やしていきます。

市民協働することで

住み続けたい、住み良い湖西市をつくりましょう。

Q5. 「市民協働を進めていくうえでのルールは？」

A

市民協働を進めるには、次の5つの基本的な考えがあり、市民協働を進めるもの同士、このルールを理解することが重要です。

① 相互理解

お互いの特性（長所や短所・「できること」「できないこと」）を理解し尊重し合い、役割分担を明確にします。

② 自主性の尊重

市民・事業者・自治会等・市民活動団体の活動が自主的かつ自己責任のもとで行われていることを理解し、その主体性を尊重します。

③ 対等な関係

お互いが上下の関係ではなく、対等な関係を保つことに心がけます。

特に市は、市民・事業者・自治会等・市民活動団体への支援者としてではなく、同じまちづくりの仲間としての意識を持ちます。

④ 相互自立

どちらかに依存するのではなく、お互いに自立した関係を保ちます。

⑤ 情報の共有

市民協働を推進するきっかけを生み出すために、お互いの情報を積極的に公開し共有します。

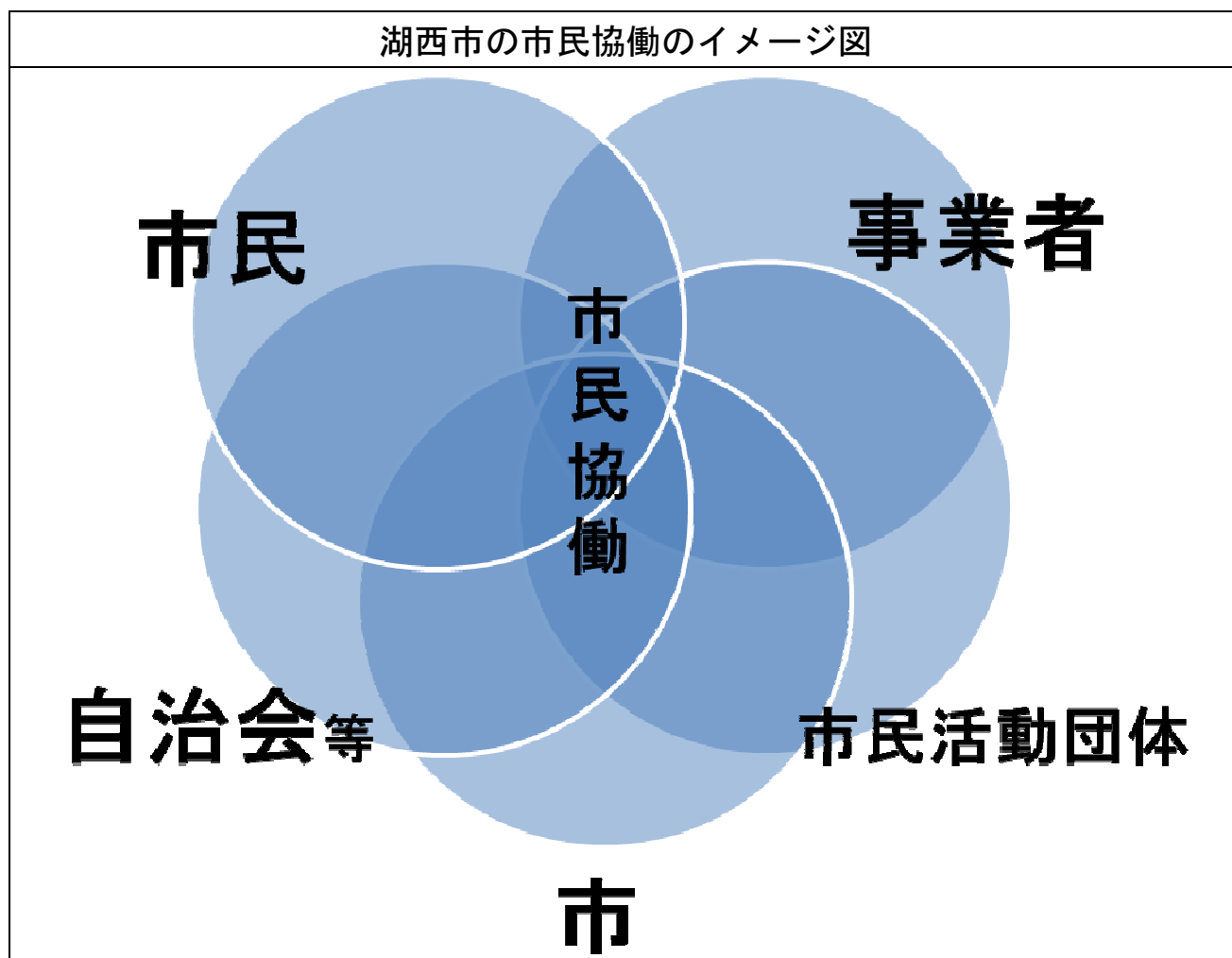
協働事例③ 入出明湖会の活動（入出地区）



入出明湖会は、毎月、地域内の各種団体の代表や地元の市議会議員が集まり、定例会を開いて、地域行事などについて話し合っています。この話し合いは、市民協働を進めるために必要な情報の共有や相互理解を深めることができ、それぞれの団体が対等な関係で地域活動を進めています。

Q6. 「湖西市の市民協働のイメージは？」

A



湖西市の市民協働は、市と自治会等だけでなく、より多くの市民、事業者、市民活動団体が関わり合うイメージでまちづくりを推進します。

これまでの、それぞれが役割を担う地域社会から、みんなで協力して支え合う地域社会を目指していきます。